

生活保護改悪案を可決

衆院委で強行 共産党反対「生存権侵す」

生活保護制度の申請をはねつけ、利用者を追い出す生活保護法改悪案と生活困窮者自立支援法案が31日の衆院厚生労働委員会で強行採決され、自民、公明、民主、維新、みんな各党の賛成多数で可決されました。日本共産党は反対しました。たった2日間の審議で採決を強行したことに對して抗議行動が議員面会所で行われました。

◆関連の面

法案が審議入りしたのは29日、2日目の審議となった31日は午前中に参考人から意見陳述を受けたにもかかわらず、自民、公明、民主などは午後採決を強行しました。

高橋氏は、憲法25条に基づく生存権保障の基本理念を侵すもの主張。生活保護の申請時に書類提出を義務付けたことは、窓口で申請をはねつける「水際作戦」を合法化するものであり許せない」と批判し、自公と民主、みんなが提出した修正案も本質を変えるものでない」と強調しました。

扶養義務者に対する調査権限の強化などが盛り込まれたことについて「保護開始の要件とされていない扶養義務の履行を事実上強いることになる。親族に知られたくないから生活保護を受けることを断念させることにつながるかねない」と指摘しました。

生活保護改悪と一体で提出されている生活困窮者自立支援法案については「生活保護基準を下回る仕事でも『とりあえず就労』という形で、生活保護からの追い出しと、水際作戦のツールになるおそれがある」と批判。国連から「申請手続きの簡素化」が求められていることにも逆行すると述べました。

困窮者の命綱を切った ■ 国民全体の問題

傍聴者ら怒り 志位委員長 あいさつ

衆議院厚生労働委員会で生活保護法改悪法案が強行可決された31日夕、衆院議員面会所に傍聴者ら約30人が集まり、強行した自民、公明、民主など各党に怒りの声をあげました。行動には日本共産党の衆参議員が駆けつけ、志位和夫委員長と、高橋ちづ子衆

傍聴に駆けつけた人たちにあいさつする日本共産党国会議員団。左から3人目は志位和夫委員長。31日、衆院議員面会所

「参院で廃案に」

議員、田村智子参議院議員があいさつ。志位氏は、「たたかいはこれからです。参院で廃案を目指してがんばりぬく」と表明しました。

埼玉県鶴ヶ島市から参加した田中由利子さん(63)は「審議を傍聴し、委員の中で生活保護の実態を理解しているのは共産党だけだと感じました。生活保護法の改悪は、国民全体の問題だと思えます」と語りました。東京都江戸川区の島長香代子さん(63)は「生活保護を受けるべき人が受けられていないのが現状です。生活保護水準以下の生活を送っている人もたくさんいます。生活保護受給者を差別し、国民を分断するような法改正は絶対に許せません」と怒りを込めました。